

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校
 「つなぐチカラ」(知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ)を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

- 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ(夢を叶える)」学校をめざす。
- 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
- 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒一人ひとりの多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。また、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。

※学校生活満足度を令和5年度には80%以上(H30:69%、R01:75%、R02:74%)をめざす。

1 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)

- (1) 生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。
- ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施することで、主体的に学びに向かう力を養い、「深い学び」と達成感のある授業へとつなげる。各教科・科目やコアカリキュラム等での探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和5年度には75%以上(H30:59%、R01:68%、R02:70%)をめざす。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「学習で自分が努力したことを認めてくれる」を令和5年度には80%(H30:72%、R01:75%、R02:76%)をめざす。
- イ ICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることで学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有により1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げるよう取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率を引き続き90%以上(H30:88%、R01:91%、R02:93%)を維持する。
- ※ 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率を引き続き90%以上(H30:98%、R01:97%、R02:93%)を維持する。
- (2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成
- ア 「総合的な探究の時間」や特別活動及びコアカリキュラムを中心に教科間の連携を有機的に進め、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図るとともに、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度を令和5年度には80%以上(H30:72%、R01:74%、R02:78%)をめざす。
- ※ 学校紹介就職率100%(H30:100%、R01:98%、R02:100%)、卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率を、今後3年間5%以下(H30:3.0%、R01:0.5%、R02:0.0%)を維持する。

2 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)

- (1) 各教科、コアカリキュラム、総合的な探究の時間や特別活動等、あらゆる教育活動において人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。
- ア 人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、在日外国人や障がい者に係る課題等をはじめ、様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。
- イ 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率を引き続き80%以上(H30:77%、R01:82%、R02:87%)を維持する。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校の人権教育に対する肯定率を令和5年度には85%以上(H30:73%、R01:81%、R02:84%)にする。
- (2) 様々な国にルーツを持つ生徒がともに学ぶ本校の特色を最大限に生かし、国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育むとともに、SDGsの視点から文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育を推進する。
- ア 多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。
- ※ 教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」90%以上(H30:91%、R01:97%、R02:95%)を維持する。

3 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)

- (1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。
- ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通して、生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかり、安全で安心な学びの空間を作る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率を令和5年度には80%以上(H30:70%、R01:74%、R02:79%)をめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率を令和5年度には80%以上(H30:74%、R01:76%、R02:78%)をめざす。
- イ 「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度を令和5年度には68%以上（H30：54%、R01：60%、R02：62%）にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度を令和5年度には80%以上（H30：73%、R01：75%、R02：75%）をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

※ 近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

※ 「成美高校マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、蓄積した教育資源を積極的に活用するとともに、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。

※ 時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ※（ ）内数値は昨年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が76(75)%、「教え方に工夫をしている先生が多い」70(72)%と、前年度とほぼ同水準であった。「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」が92(93)%であった。1人1台端末が活用できる環境を整備してICTの活用を促進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要である。 ・総合学科として多様な教科・科目を開設し、「選択教科は多様なものがあり自分の学びたいことを選べる」84(85)%と評価を得ている。3年間を通したキャリア教育とつなげて、生徒の進路実現を進める。 ・「学習の評価の方法や基準について納得できる」が78(80)%と若干ポイントを落とした。観点別学習状況評価による指導と評価の一体化をもって授業改善を進める必要がある。 ・「授業では実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がある」が33(53)%と下降した。コロナの感染リスクを避けるため、実験・実習・観察、および地域等との外部連携が2年続けて実施できなかったことが大きく影響した。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・76(77)%の生徒、77(75)%の保護者が「いじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。教職員がアンテナを高くして日々の生徒の様子をしっかり確認し、情報共有と組織的対応を徹底し、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう引き続き努めていく。 ・「学校は生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」74(79)%とポイントを落とし、「学校生活についての先生の指導は納得できる」は61(62)%であった。規律面の強化を期待する保護者の意見と生徒が安全・安心に学校生活を送れるようにすること、生徒の納得を得ることの両立ができるよう、教職員と生徒との十分な対話による指導を行っていくことが重要である。 ・「学校行事は周りとは協力しておこなえる」80(79)%、「生徒会活動は活発である」73(75)%であった。コロナ感染リスクを低減するため、今年度も行事実施に制限が必要であったが、生徒と教職員の協力により、一定の充実感を持ってもらうことができた。 ・「人権について考える機会がある」86(92)%は下降し、「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」83(81)%は上昇した。コロナ禍で、多文化理解学習や高大連携授業・地域専門機関との連携授業に今年度も制約が必要であった中で、できることを行ってきた。人権を大切にしたい取り組みは引き続き、最重要課題の一つとして推進していく。 ・75(78)%の生徒が「授業やHR等で将来の進路や生き方について考える機会がある」と、また83(83)%の保護者が「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導と情報提供を行っている」と答えている。あらゆる機会を生徒のキャリア教育に繋げるよう、教職員で再確認し、取組を進めていく。 ・「自分のクラスは楽しい」76(74)%とポイントが上昇したが、「学校に行くのが楽しい」69(73)%と、低下してしまった。コロナリスクを避けるため、学校行事や外部機関との連携授業などが2年続けて十分にできなかったことが要因の一つと考えられるが、他の要因の可能性も含めて留意し、生徒満足度を高めていけるよう教育活動を計画し、取組を進める。 ・「担任の先生以外に保健室等で、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」62(62)%と昨年と同じポイントであった。気軽に教職員に声を掛けることができる信頼関係構築や、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用など、様々な取組を進めるとともに、教職員が生徒と向き合う時間を確保するための工夫が必要である。 ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」が71(62)%と、昨年大きく下げたポイントを回復した。障がいのある人や支援が必要な人もいる学校関係者全員が、安全に避難できる体制づくりと、常に確実な避難行動が実行できるよう、組織的な研修体制に努めていく。 	<p>第1回(7/16)</p> <p>○R3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で気苦労も多いと思うが、つなぐ教育を是非、推し進めていただきたい。 ・学校教育自己診断の指標が年度毎に着実に良くなり、今年度の目標値は実現可能な値になっているのではないかと。 ・時間外勤務80時間以上の先生方も多く居られるのではないかと。時間外勤務を減らすことは容易ではないと思うが、時間外勤務を減らし生徒の皆さんと接触できる時間が増えれば、授業に関する満足度が向上し、生徒の学習への姿勢をより深く理解し、適切なアドバイスや努力を認めることもできるかもしれない。先生方が疲れていれば、授業も生徒さんへの対応も何パーセントかは落ちる。時間外勤務削減対策、よろしくお願ひしたい。 ・中期的目標のほとんどの項目が右肩上がりの達成度となっており、学校の取り組みが確実に成果を上げている。 <p>○学校の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる影響があるのかも知れないが、今年度の部活動加入率が減少しているのが気になる。 <p>○その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自立の後押しを重視する素晴らしい教育を行っている府立高校もある。生徒たちが高い満足度をもって学ぶことが何よりの教育であると思う。 <p>第2回(11/19)</p> <p>○学校の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転退学の要因の一つとして新型コロナウイルスの影響があることは、社会情勢上大変な状況で残念なことである。落ち着いて勉学に励む状況に1日も早くなることを望む。 ・新型コロナウイルスの影響で計画した学校運営ができないたいへん厳しい状況だが、生徒の皆さんに元気と活力を育む学校になることを期待している。 ・コロナ禍の緊急事態宣言で、先生と生徒また生徒同士の会話の機会が少なかったことは課題。 ・オンライン教材も充実しているようなので、学習だけでなく、生徒とのコミュニケーションを深めることにも活用できれば良い。 ・コロナ禍にあっても、部活動も充実、表彰状も多く獲得しているようで励みになる。 <p>○オンライン授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染や非常時に速やかにオンライン授業ができるように準備するのはとても良いと思う。登校しにくい生徒にとってもありがたい。 ・教員側のICTリテラシーの問題、ICT教材やカリキュラムの問題、運用面(自宅での対応、トラブル時の技術対応、セキュリティ面の対策)等、どのように取り組んでいるのか。 ・生徒の顔を見ることで(対面授業)理解度を押し量ることができると思うので、大変だと思う。すべて煩雑に追われることが懸念される。 ・生徒各々のハード環境や操作スキルが違う状況で、併せて教員側にもオンライン学習のスキルが求められるので、支障なく運営するためには相当の事前準備が必要であると思われる。先行実施されている学校のノウハウ等を参考にされ、スムーズな運営になることを期待している。 ・情報の漏洩が心配になる。 ・学習支援クラウドサービスを使われるので、オンライン授業もスムーズに行えると思うが、教室の授業と異なり、先生は生徒全体の顔を見ることができず顔の表情や学習態度のチェックが難しいかもしれない。 ・Web会議システムは、講師からの一方通行の話を聞くだけになりがちである。 <p>第3回(2/9)</p> <p>○令和3年度学校評価、令和4年度学校運営に関する基本的な方針(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、教員が熱心に工夫し取り組んでいることが評価に反映されている。基本方針について承認する。 ・前年度に比較して、生徒向け学校教育自己診断の授業満足度で8ポイント、基本的な生活習慣に関する項目で5ポイント後退しているのが気になる。「令和4年度の基本的な方針(案)」は令和3年度学校運営から見えてくる課題を意識した内容になっていると思う。令和4年度はより一層生徒に向き合い、具体的な行動で「生徒ファースト～達成感・

府立成美高等学校

<p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動体験・仮入部などを通じて部活動の活性化に学校は努力している」、「保護者が授業を参観する機会を設けている」、「学校行事に参加したことがある」など、コロナの影響で今年度実施できなかった項目において、保護者の肯定率は大きく下がった。新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、安全に実施できるように努める。 ・「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」63 (73) %、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」74 (82) %と、保護者のポイントを下げってしまった。コロナ禍で懇談時にしか来校いただけない保護者に対して、“教育活動の見える化”を意識的に考えていかなければならない。 ・教職員評価では、「同和問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」、「様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」、「ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる」、「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」など、多くの項目で上昇・回復した」など、学校課題や新学習指導要領導入に対応するため、教職員が組織的に取り組みを進めている。 	<p>充実感・納得感～」を教員・生徒が共感できれば良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年もコロナ禍による制限のある中で、学校行事、体験型学習に取り組むことは非常に困難であったと思う。その中で、できることを見出し工夫すること、体験活動の在り方を考える必要性を感じる、と述べられているが、ぜひ少しでも実現できるようになることを望む。 ・コロナ禍による教育活動の制限が生徒及び保護者の評価に大きく影響していることは明らかである。今後もコロナの影響を受けることは必至の状況だが、教員も生徒も逆境に負けることなく創意工夫しながら前向きに頑張っていただくことを期待する。 <p>○令和4年度 学校運営に関する基本的な方針（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全会一致でご承認いただいた。 <p>○令和3年度学校教育自己診断の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力だけに注目するのではなく、この時代を生き抜く力と自信を身につけ、世の中で居場所を見つけ、他者へのリスペクトを育む教育が、社会全体の課題である。 ・「学校に行くのが楽しい」の肯定率が前年度比で後退しているが、学年によって差があるようだ。高校生活でまともにコロナの影響がある2年生は気の毒である。今年もどうなるか見えてこないが、今の2年生が「高校生活が楽しかった」と思って卒業できれば良い。各学年で校則緩和の要望が上がっていて、大阪府立高校全体で検討すべきだと思う。 ・コロナ禍で3密を避けてとなればコミュニケーションを図ることは困難と思うが、学習支援クラウドサービスをどの学年も利用されているのが救いである。 ・コロナ禍の状況にありながらも、中学校から高校という新しい環境に入った1年生の約80%が「学校へ行くのが楽しい」と感じていることがたいへん評価できると思う。また、コロナの影響で仕方がないが学校と保護者の距離が遠くなっているようなので連携強化を図る取り組みが必要である。 ・選択科目の説明では、もう少し詳細な説明が必要である。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
生徒ファースト・安全で 安心な学びの場づくり	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動と「安全で安心な学びの場」づくり	生徒一人ひとりの多様な学びと進路実現に繋がる教育内容の充実を図るとともに、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度の肯定率 76% [74%] ・生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率 80%以上 [82%] 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度は73%で、目標には届かなかったが、コロナ禍による校外活動や行事の制限が2年続いた中で、ほぼ昨年と同水準を維持できたため、概ね目標を達成することができたと考えられる。(○) 次年度は行事運営方法の継承の必要性も踏まえたうえで、実施内容を精査したうえで出来る限り校外活動や行事を実施できるよう努める。 ・生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率は81%で目標を達成できた。(○)

府立成美高等学校

1 夢をつなぐ (確かな学力と進路実現)	<p>(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実・改善の取り組み ア 新指導要領に基づく3観点を伸ばす授業充実・改善の取り組み</p> <p>イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>(1) ア・生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施する。 ・探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。 ・観点別学習評価の試行実施と研修により、次年度本格実施に繋げるとともに、生徒の満足度を向上させる。</p> <p>イ・ICTを効果的に取り入れて学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有に取り組む。</p> <p>(2) ア・進路希望に応じた論文や面接の指導、インターンシップ等体験活動の充実を図る。 ・1年時から生徒の進路希望を把握し、進学講習体制を確立する。 ・コアカリキュラムを通じて、キャリアガイダンスを充実させるとともに、探究し表現する活動を通して、社会を生き抜く確かな学力が身につけられるよう取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・「授業アンケート」の「授業展開」(生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている)に関する肯定的意見80%以上を維持 [89.5%] ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度72%以上 [70.3%] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率78%以上 [76%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率90%以上 [93%] ・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率90%以上 [93%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度79%[78%] ・1回めの就職試験合格率70%以上 [83.8%] を維持。 ・学校紹介就職希望者の就職率100% [100%] ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率5%以下 [0.0%] を維持。</p>	<p>(1) ア・「授業アンケート」の「授業展開」(生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている)に係る肯定的意見は90.3%で目標を達成した。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度は62.3%と大きく下げた。要因は、実験・実習や校外へ見学に行く機会についての肯定度を大きく下げたためであり、コロナ禍においても安全に実施できる実験・実習の開発や実施方法の工夫が必要である。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は73%で昨年度より下がった。要因として、コロナ感染者増加による臨時休校によりオンライン学習を実施したことで、対面での評価の機会が減少したことが考えられる。3観点それぞれの観点別学習状況評価を行うことにより、生徒の自己肯定感を高められるようにする。(△) イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率92%で目標を達成した。(○) ・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率97%で目標を達成した。(◎) 今後、生徒1人1台端末の有効活用も進めていく。</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度77%で目標に少し届かなかった。(△) 要因として、コロナ禍においてインターンシップなど体験活動の機会が減少したことが考えられるが、取り組み全般の改善や情報発信に努め、満足度を上げていく。 ・1回めの就職試験合格率は73.3%であった。(○) ・学校紹介就職希望者の就職内定率は100%で、目標を達成することができた。(○) ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率は0.9%で、目標を達成した。(○)</p>

府立成美高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 文化をつなぐ「人権意識が身についた」「他を思いやる心」をもつ生徒の育成</p>	<p>(1) 生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒の育成</p> <p>ア 様々な人権問題の総合的な推進</p> <p>イ 「帰国生徒・外国人生徒」個々の教育的ニーズに応じた支援の充実</p> <p>(2) 国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力の育成とSDGsの視点による文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育の推進</p> <p>ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解</p>	<p>(1)</p> <p>ア・在日外国人に係る諸課題や、障がい者、性と性、感染症等の様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。</p> <p>イ・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、部活動や地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 80%以上 [87%]</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率 80%以上 [84%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 90%以上 [95%]</p> <p>・多文化理解公演会、「生と性を考える授業」を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率は85%で目標を達成した。(○)今後も人権教育に積極的に取り組んでいく。</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率は 84%で目標を達成した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率は98%であった。(◎)</p> <p>・多文化理解公演会、「生と性を考える授業」を感染症対策のもとで実施した。(○)</p>
--	--	--	--	---

府立成美高等学校

<p>3 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通じた基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実</p> <p>イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される開かれた学校づくり</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。</p> <p>イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・教育支援委員会(毎週)において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。 S C, S S Wと緊密に連携し、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。 ・生徒支援に係る重要な情報は、秘密厳守で教職員全員が共有し、すべての教職員で見守りと支援・指導にあたる。 ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2) ア・体育祭、文化祭等学校行事の企画運営、学校説明会等での生徒が活躍する場を適切に設定し、生徒会役員をリーダーに据える。</p> <p>イ・新入生オリエンテーション、体験入部(中学生、新入生)等の機会を活かし、部活動への参加促進を図る。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3) ア・改編・広報P Tコア会議(週1回)を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。</p> <p>イ・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業を継続して実施し、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア・遅刻率(生徒一人当たりの遅刻回数)を前年度以下とする</p> <p>・生徒の懲戒件数を前年度以下とする</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度80%以上[79%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率64%[62%]をめざす</p> <p>ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会における各課題を、毎週、運営委員会・企画会議で共有する。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度77%以上[75%]</p> <p>イ・体験入部等の機会を通して、中学生への魅力発信を行う。 ・大会やコンクールの入賞数10件以上[25件]</p> <p>(3) ア・近隣中学校の訪問5回以上実施[7回]</p> <p>イ・地域のイベント参加数25件以上[R元年度51回、R2年度はコロナ禍により実績なし] ・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上[R元年度21名、R2年度はコロナ禍により実績なし]</p> <p>・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度75%以上[76%]を維持する。</p>	<p>(1) ア・遅刻率(生徒一人当たりの遅刻回数)は、昨年度より増加した。(△)要因の一つとして、コロナ禍における体調不良時の登校への慎重な判断が考えられるが、適切な健康教育と担任等からの日々の確認を通して改善を図る。 ・生徒の懲戒件数は昨年度より増加した。(△)生徒動向を注視し是正指導に努めたことと、コロナ禍の長期にわたるマスク着用が、コミュニケーションや人間関係構築の障壁となっていることの両面が要因として考えられる。 ・基本的生活習慣の確立に関する肯定度は74%であった。(△)卒業後を見据え生活指導に多くの時間を掛けて対応しているが、遅刻等をする生徒が多かったことが肯定度を下げた要因の一つと考えられる。家庭との連携をより一層深め、生徒の生活全般の指導・支援力を高めるよう努めていく。</p> <p>イ・教育相談に関し「担任の先生以外に保健室等で悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率は昨年度と同じ62%で、目標に届かなかった。(△)生徒と教職員の関係構築がまだ十分ではないと認識し、日常からの挨拶や声掛けを全教職員で意識するとともに、相談窓口の周知と相談しやすい環境づくりをめざす。</p> <p>ウ・毎週会議において課題を共有し、早期対応と予防的取組に努めている。(○)</p> <p>(2) ア・行事、生徒会活動等に関する満足度は71%であった。新型コロナウイルスの感染拡大のタイミングにより、部活動紹介、体験入部・仮入部を実施することができず、このポイントを大きく下げたためである。(ー)</p> <p>イ・コロナ禍にあって、成美カップや中高連携部活動交流の開催を見送った。(ー) ・新学期の新入部員勧誘時期のコロナ感染拡大による体験入部の中止等、部活動活性化方策の実施が厳しい中でも、各部の生徒が努力した結果、入賞数20と健闘した。(○)</p> <p>(3) ア・近隣中学校へは5回訪問した。(○)新型コロナウイルス感染拡大状況により中学校訪問を極力控えたが、電話等による情報共有と連携に努めた。</p> <p>イ・地域のイベントはコロナ禍によりすべて中止となり、令和3年度も実績なし。(ー) ・校区一斉清掃活動等も、コロナ禍による感染拡大防止のため、令和3年度も開催されなかった。(ー)アフターコロナにおいては、地域に信頼される学校として、これまで行ってきた中高連携、地域連携を元通りに活性化させていく。 ・保護者向け学校教育自己診断アンケートにおける情報発信の肯定度は72%と目標を下回った。(△)配布文書に加え、メールマガジン</p>
--	--	---	---	---

府立成美高等学校

				等で情報発信を行ったが、HPやブログの更新が不十分であった。コロナ禍で保護者に学校を訪れていただく機会が減っているため、より丁寧に情報発信を行っていく必要がある。
4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進める	(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。	(1) ・「成美マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。 ・時間外勤務月80時間以上の職員を前年度以下とし、なくすように努める。	(1) ・成美マニュアルを更新し、年度当初に全教職員で読み合わせを行い、共通認識を構築することで、効率的な業務に繋げている。(○) ・時間外在校等時間が月80時間以上となった教職員数は昨年度と比べ半減し、大きく減少した。 (◎) 教職員の意識向上が進んだ結果であるが、今後業務改善にさらに取り組み、時間外在校等時間をより一層削減できるよう取り組む。